

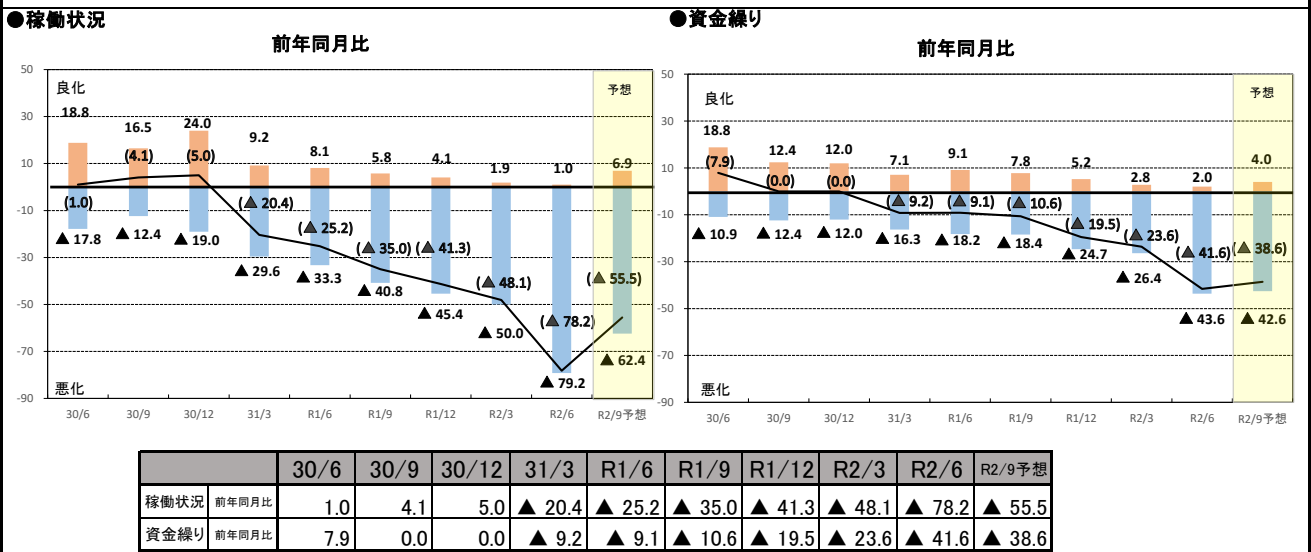
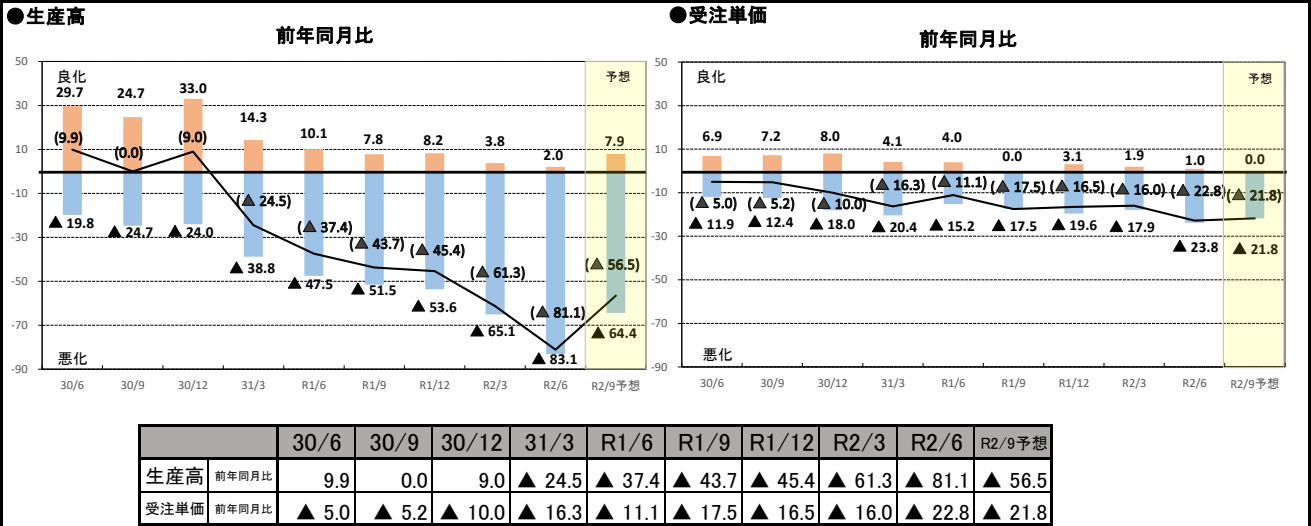
受注企業動向調査結果

-2020.7-

- 調査時点 令和2年6月調査(令和2年6月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 101社(回答率:67.33%)

＜業種内訳＞	
プラスチック	6社
鉄鋼・非鉄	10社
金属製品	21社
一般機械器具	23社
電気機器	19社
輸送用機器	7社
精密機器	10社
縫製	5社
計	101社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。



●概要(総合)

- ・生産高(前年同月比)DIは▲81.1で前回の▲61.3から19.8ポイント減の悪化となった。
- ・受注単価(前年同月比)DIは▲22.8で前回の▲16.0から6.8ポイント減の悪化となった。
- ・稼働状況(前年同月比)DIは▲78.2で前回の▲48.1から30.1ポイント減の悪化となった。
- ・資金繰り(前年同月比)DIは▲41.6で前回の▲23.6から18.0ポイント減の悪化となった。
- ・3ヶ月後の予想DIは生産高が▲56.5で24.6ポイント増の改善、受注単価は▲21.8で1.0ポイント増の改善、稼働状況が▲55.5で22.7ポイント増の改善、資金繰りは▲38.6で3.0ポイント増の改善という予想になった。
- ・その他自由意見として、新型コロナウイルス感染症の影響で業界全体が悪化しており、先行きの不透明感が強い。取引先も在庫が増えており、商談も進まず見通しは暗い。短納期の受注が増え、綱渡りの状態となっている。また、受注が減少している中で医療関連の新規受注があり、維持できているもの一過性なため、先行きは不透明である。今は、社内改革の時期と捉えているという意見が寄せられた。